

科目名	基礎演技Ⅱ						年度	2025	
英語科目名	Basic Acting Ⅱ						学期	後期	
学科・学年	声優・演劇科 1年次	必/選	必	時間数	70	単位数	2	種別※	実習+実技
担当教員	渡井れい、松橋頼良	教員の実務経験		有	実務経験の職種		俳優		
<b>【科目の目的】</b> 基礎演技Ⅰから引き続き「肉体トレーニング」「呼吸」「発声」を繰り返し、基礎体力の上昇や基礎能力を向上させ、発表に向けて備える。様々な演技の表現方法を学び、自ら考察を重ね、共演している学生間のコミュニケーションを確立させる。最終回の成果発表を通して、各自の今後の課題を見つけ、役者としての一步を踏み出すための足掛かりにする。									
<b>【科目の概要】</b> 個々の資質を伸ばしながら、呼吸法・発声法・発音訓練、それに伴う身体訓練などを含む演技の基礎を学ぶ。									
<b>【到達目標】</b> 演劇表現を行う者つまり役者の基礎力を高めることを最重要視する。言葉で「伝える」ことの難しさを再認識し、基礎力をもって「わかりやすく伝える」ことを意識し、実践できるようになること。感情を開放し、コントロールしながら声と身体を使って、表現ができるようになること。基礎演技Ⅰで理解、達成したことを踏まえながら具体的な目標として「成果発表」をする。									
<b>【授業の注意点】</b> 学生間・教員と学生のコミュニケーション・協働性を重視する。役者としての常識マナーを身につけるために原則として遅刻や欠席、見学は認めない。集中力を欠かさず、向上心と積極性を持って授業に参加することを求める。グループワークでの発表が多いので、協調性を持ち、授業に参加できるようにコミュニケーションをとり、出された課題は各自クリアするために日々研究を重ね、授業に臨むこと。授業時数4分の3以上出席が必須。									
評価基準＝ルーブリック									
ルーブリック評価	レベル5 優れている	レベル4 よい	レベル3 ふつう	レベル2 あと少し	レベル1 要努力				
到達目標 A	腹式呼吸が完璧にできており、長い台詞・短い台詞を正しい発声法とプレスポイントを駆使することができる。	概ね腹式呼吸ができているが、息の量が少なくなつた時に咽頭への力みが生じる発声をしている。	腹式呼吸を理論的に理解しているが、訓練不足により結果が出ていない。	腹式呼吸を理論的に理解できず、訓練方法の意図も理解できていない。	腹式呼吸やその訓練の重要性を理解せず、授業内において出席意欲を感じられない。				
到達目標 B	初見の課題において、母音・子音・鼻濁音・母音の無声化を的確に区別し、台詞として表現することができる。	母音・子音・鼻濁音・母音の無声化を自力で区別することができる。	母音・子音・鼻濁音・母音の無声化の理論を理解することができるが、自力で区別することができない。	母音・子音・鼻濁音・母音の無声化の理論を理解することができず、区別していうことができない。	母音・子音・鼻濁音・母音の無声化の理論を理解しようとして、授業内において出席意欲を感じられない。				
到達目標 C	戯曲の内容・登場人物・作者の意図を自分なりに解釈し、作品について語るすることができる。	戯曲の内容・登場人物・作者の意図を自分なりに解釈し、作品のテーマを理解している。	戯曲の内容・登場人物の相関を理解している。	戯曲の内容・登場人物の相関を理解しようとする意欲は見えない。	戯曲を読解しようとする意欲がない。				
到達目標 D	自分の役割を理解し、自己都合を一切感じさせず他者の感情に訴えかける表現を行うことができる。	自分の役を理解し、他者の感情を考慮しながら“役としての”コミュニケーションを図ることができる。	自分の役を理解し、他者の感情を考慮し用としているが“役としての”コミュニケーションを図ることができない。	自分の役を理解できず、他者と目を合わせてコミュニケーションを図ることができない。	自分の役を理解しようとして、他者とコミュニケーションを図ろうとしない。				
到達目標 E	遅刻・欠席をしない	遅刻はあるが欠席は少ない	遅刻・欠席が少ない	遅刻・欠席が多い	遅刻・欠席が非常に多い				
<b>【教科書】</b> 「ベーシックテキスト」その他、必要に応じてプリントを配布。パソコン・タブレット・スマートフォンなどのモバイルツール、参考資料等は授業内で指示する。									
<b>【参考資料】</b> NHK日本語発音アクセント辞典									
<b>【成績の評価方法・評価基準】</b> 小テストおよび期末テストにより採点。授業への積極性と参加態度を評価する。									
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。									

科目名		基礎演技Ⅱ			年度	2025
英語表記		Basic Acting Ⅱ			学期	後期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	コミュニケーション感覚を伴った行動から心の動きを理解する。	役者になるための基礎トレーニング	1 呼吸法	腹式呼吸・レギュラーを習得する	2	
			2 母音法	全ての言葉を母音だけで発音する		
			3 フレージング法	喜怒哀楽を意識的に表現する		
2	伝えることの大切さを学び、理解する。台詞を人に伝えることができるようになる。		1 呼吸法	腹式呼吸・レギュラーを習得する		
			2 母音法	全ての言葉を母音だけで発音する		
			3 フレージング法	喜怒哀楽を意識的に表現する		
3	感情表現とスムーズに繋がる身体の状態やテンポと間を理解し、表現できる。		1 呼吸法	腹式呼吸・レギュラーを習得する		
			2 母音法	全ての言葉を母音だけで発音する		
			3 フレージング法	喜怒哀楽を意識的に表現する		
4	自ら進んで役作りの研究をすることができる。		1 呼吸法	腹式呼吸・レギュラーを習得する		
			2 母音法	全ての言葉を母音だけで発音する		
			3 フレージング法	喜怒哀楽を意識的に表現する		
5	共演者と話し合いながらシーン作りができる。		1 呼吸法	腹式呼吸・レギュラーを習得する		
			2 母音法	全ての言葉を母音だけで発音する		
			3 フレージング法	喜怒哀楽を意識的に表現する		
6	色々な演じ方を工夫してみる事ができる。相手のセリフを聞くことができる。	1 呼吸法	腹式呼吸・レギュラーを習得する			
		2 母音法	全ての言葉を母音だけで発音する			
		3 フレージング法	喜怒哀楽を意識的に表現する			
7	それぞれに稽古したシーンをつなげて全体の通し稽古ができる。作品を客観的に理解する。	1 呼吸法	腹式呼吸・レギュラーを習得する			
		2 母音法	全ての言葉を母音だけで発音する			
		3 フレージング法	喜怒哀楽を意識的に表現する			
8	音楽を取り入れ、ステージ上にて世界観を表現することができる。	1 呼吸法	腹式呼吸・レギュラーを習得する			
		2 母音法	全ての言葉を母音だけで発音する			
		3 フレージング法	喜怒哀楽を意識的に表現する			
9	本番を想定し、リハーサルを行うことができる。	1 呼吸法	腹式呼吸・レギュラーを習得する			
		2 母音法	全ての言葉を母音だけで発音する			
		3 フレージング法	喜怒哀楽を意識的に表現する			
10	課題演技の成果をステージで発表することができる。	1 呼吸法	腹式呼吸・レギュラーを習得する			
		2 母音法	全ての言葉を母音だけで発音する			
		3 フレージング法	喜怒哀楽を意識的に表現する			
11						
12						
13						
14						
15						

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等